

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173501131), 法人名 (医療法人社団 上田病院), 事業所名 (グループホームゆうゆう (花)), 所在地 (室蘭市日の出町2丁目2番地27号), 自己評価作成日 (平成27年10月30日), 評価結果市町村受理日 (平成27年12月7日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームは3つのユニットがあり、各ユニットが二階建ての住宅のように吹き抜けになっていて天井が高く開放的。入居者さんもそれぞれのユニットを自由に行き来している。
・医療法人が母体であることから、緊急の体調変化にも対応が可能であり、入居者や家族から安心してもらえている。
・同じ敷地内に同法人のグループホームがあり行事など合同で行う事もあり、入居者同士が交流を図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanietrue&JigvosyoCd=0173501131-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成27年11月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

室蘭市郊外の閑静な住宅地に建てられており、広い敷地には同法人のグループホーム『たんどん』もあり日常的に交流している。住宅地ではあるが、近くには商店街があり、利便性も良く日常的に買い物や散歩に出かけている。運営母体である医療法人は開院より地域医療の担い手で、入院病床もあり利用者・家族・職員は、大きな安心感に包まれてる。3ユニット2階建ての事業所内は、吹き抜け構造で明るくゆったりと造られており、8畳の居室には利用者それぞれが自宅から馴染みの生活用品を持参し、くつろいで過ごしている。近隣住民とは買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会主催の行事に参加し、また地域住民は事業所主催のバーベキューや避難訓練に参加する等、良好な関係を築いている。避難訓練は消防署の協力のもと年2回実施しており、毎月上旬には事業所独自に地震や津波等を想定したシミュレーション訓練を行い、全職員が危機感を持ち自然災害に備えている。災害時備蓄品は、ポータブルストーブ・カセットコンロ・食料品・飲料水・生活用水等を用意している。恵まれた住環境のなか、地域密着型として今後さらに期待される事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関入口に掲示している。朝の申し送りやユニット会議などで、共有しあい、実践につなげる話し合いをしている。	事業所独自の理念とケア理念は、玄関に掲示しており、職員は名札の裏に理念を記載したカードを入れ毎日確認している。各ユニットの年間目標も作成して、ケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。バーベキューや避難訓練などゆうゆうの行事に参加。春、秋の町内会のごみ拾いやお祭りなど町会行事に参加している。	利用者と共に、地域の清掃活動や夏祭りなど町内会行事に積極的に参加している。事業所には看護学生の実習や、ボランティア訪問がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会の方々や家族に運営推進会議へ参加して頂き、グループホームでの実践を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、家族や地域の方や包括支援センター・市役所・消防の方等参加頂き意見や要望を聞き課題として取り組んでいる。会議の議事録を職員に回覧し情報を共有している。	同じ敷地に建つ、同法人運営のグループホーム『たんどん』と共同開催している。活動報告書や予定表を配布し、利用者家族・町内会役員・地域包括支援センター職員・消防署の意見を運営に活かしている。	運営推進会議の内容が、全利用者家族に伝わるように、会議終了後は、参加者及び利用者家族に議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種の会議や研修に参加し交流している。運営推進会議に参加してもらい日常の実践を報告している。わからないことがあれば、連絡し指導を受けている。	市とは当局への活動状況報告など連絡を密にするほか、消防・包括支援センターなど関係機関の助言を得て、サービスの質の向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し随時開催している。日中は玄関の施錠はしていない。	夜間の数時間以外玄関は施錠していない。管理者と職員は鍵をかけることの弊害を理解し、外出傾向の利用者には、さりげなく見守り支援をしている。身体拘束や虐待に関するマニュアルは完備し、自由な生活を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修にて虐待防止を取り上げ学んでいる。虐待に関する外部研修に参加したり防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	朝の送り出しの時間やユニット会議などを利用し再度職員全体へ権利擁護に関して学ぶ機会を設けていく。 成年後見制度を利用している入居者さんがいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には十分時間をかけて説明を行っている。不安や疑問などを話してもらえよう努め理解納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。意見、苦情があった場合は速やかに施設長に報告し同時に職員間で共有し検討改善に向けている。	玄関入り口に意見箱を設置している。家族の来訪時には話し合いを持ち、運営推進会議にも家族が参加しており、意見や要望は運営やケアに反映している。	利用者家族の、声に出せない希望・要望を把握するためにも、事業所独自の家族アンケートの実施を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や毎日の送り出しなどを利用し職員から意見や提案を聞く機会を設け検討し反映している。	管理者は日常の業務を通じ、積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。さらに人事考課や個人面談を行い、個々の職員の実績を評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為に各種研修への参加。 担当業務の割り当て。 個別の面談の実地昇給など。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じた職員研修の実施。 事例検討会の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	広域連絡会や市内のGH主催の研修会等への参加により、情報交換や交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族から書面・面談等で情報を収集し、思いを探り安心して暮らしていけるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コミュニケーションを密にし話しやすい関係、環境作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	細かなアセスメントと職員間の情報共有で状況に応じた必要な支援を、他のサービス利用を含めて見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重したうえで、出来ることをしてもらいながら共同生活の一員として共に暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを大切にしながらコミュニケーションをとり情報を共有していき、共に本人を支えていく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、外出、外泊などは自由に行っている。家族や知人の面会時にはゆっくり過ごせるよう配慮している。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、日本古来の風習や生活習慣を大切に、事業所内では節分・ひな祭り・七夕・十五夜等の行事を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングテーブルの座席などで配慮している。お互い関わり合えるよう配慮し見守りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設への転居による退去の場合、受け入れ先と十分に連携して情報を提供し本人や家族が安心して暮らしていけるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動、表情、家族の要望より意向を引き出せるように努めている。意思疎通が困難な場合は家族から情報を得ている。	個々の思いや意向は、日常の様子や会話で把握するよう努めている。困難な場合は家族や関係者に相談し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの話、医療機関や他事業所からの情報収集により経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の送りやユニット会議等で一人一人の現状について話し合い職員間で共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、ユニット会議等を活用しモニタリングを行い、本人や家族、チーム内の意見等を介護計画に反映し作成している。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録の記載を行っている。提供する支援に番号を付け記録の際に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望に応じて柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会行事に参加。ボランティアの受け入れ。町会と連携した防災訓練の実施。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を尊重し継続して医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医受診時には、職員が同行支援をしている。運営母体が医療法人であり、緊急時にはすぐに対応できる体制ができており、利用者や家族にとって安心感がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保している。 法人内の看護職員が訪問看護を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護添書を提出し情報を提供している。入院中は面会時に情報収集を行い退院後の生活がスムーズに行えるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居後に本人や家族と終末期について覚書を作成し説明をしている。家族との連絡を密にし主治医の指示の元、本人や家族の希望に添えるよう配慮している。	本人・家族の意向・要望を基に協力医療機関との連携体制を含み、重度化や終末期への方向性や指針を文書で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを設置している。 定期的にシミュレーションを実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会、消防参加の防災訓練を年に2回実施している。日中や夜間の想定をしたり職員全員が対応できるように配慮している。	年2回消防署の協力の下、利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っている。消防署員は運営推進会議にも出席しており、缶詰や飲料水等の食料品やポータブルストーブ・生活用水等も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄に関することや言葉使いに配慮し一人一人を尊重するように対応している。	プライバシーや尊厳に関わる事は、周囲に配慮しながら行っている。利用者の近くで打ち合わせをするときには、イニシャルを使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や会話、様子から希望を汲み取り声をかけ、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の体調や様子を見て、本人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択をしてもらったり、鏡の前で整容し身だしなみを意識できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳ができる入居者はいないが下膳や洗い物をしてくれる時には感謝の言葉を添え話をしながら行っている。個々の能力に応じて、もやしのひげとり等出来る作業をしてもらっている。	一人ひとりの力に応じて、準備や後片付けを行なっている。職員と共に食卓を囲み、談笑しながら和やかに食事をしており、食事が1日の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を把握している。それぞれの状況に応じた食事形態で提供している。食事量が少ない時には医師の指示を受け栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、義歯洗浄、うがいを行っている。それぞれの入居者の状況に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう排泄パターンを把握しながら時間を見て誘導している。	一人ひとりの心身の状況や、個々のサインを見逃さないように、尊厳に配慮したトイレ誘導をしている。各ユニットにはトイレが5カ所あり、使いやすく整備され、清潔である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し把握している。腹部のマッサージや下剤の調整、バナナや乳製品、麦飯等の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴の声かけを行っている。ゆっくり入浴したい方にはくつろいでもらえるよう余裕を持って対応できるよう努めている。	本人の希望する曜日や時間に入浴できるよう支援している。必要に応じシャワー浴や清拭にも対応している。運営母体病院の、デイサービスの大浴場が利用でき、温泉気分で入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間には安眠できるよう配慮している。日中は一人一人のその時の状況に応じて過ごしているが様子を見て臥床を介助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬の薬品名、用法、用量をまとめた表を作成している。特変時にはすぐに医師に報告し指示を受けている。処方薬の確認は毎日の申し送りを活用し確認し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみは毎日できるよう支援している。ユニット内だけでなくGH全体で声かけし手伝いをしてもらったり、体操、日光浴、ドライブなど気分転換の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物同行、ドライブの他に水族館やぶどう狩りへ出かけている。家族との外出等は自由に行っている。	毎日のように散歩や買い物に出掛けており、事業所前にはベンチが並び、日光浴に使われている。花見・紅葉狩り・ブドウ狩り・水族館等、遠出の行事外出や外食の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望するときには、預り金を使用し職員と一緒に買い物している。入居者はお金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきや手紙は来ている、返事をかけるよう準備し手紙を出す支援をしている。電話をかけたという希望がある時にはGH内に設置してある公衆電話を使用し話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブル、テレビの位置を居心地よく過ごせるよう配置に工夫をしている。雛人形や五月飾り等季節ごとの行事の飾りつけの他に写真や入居者の作品を飾っている。	屋根までの吹き抜け構造で、高所の天窓からはやわらかな自然光が差し込み、広く開放的な共用空間である。清潔で居心地の良いリビングには、利用者の作品や行事写真が飾られ、家庭的な雰囲気となっている。広い階段は毎日の歩行訓練にも効果を上げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時の様子を見て、過ごしたい場所を選択してもらい誘導したり、思い思いに過ごせるような配慮をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具や家族の写真を持ち込む方もいる。家具の配置も思い思いに行っている。	8畳の広さに、個々の思いや家族との絆の調度品で装い、また入所後の思いも含め、利用者の居心地にあった居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内に階段がある構造なので自然と階段昇降で脚力をつけていたり、GH内がオープンな環境であるため、あちこち出かけることで気分転換にもなっている。		